

8. 交 通 事 故

1. 日頃から留意すべき事項

○子どもへの指導

- ・道路交通環境及び交通ルールに基づく道路利用のきまり事について、発達段階に応じて理解させる。
 - ◇歩く場所の指導（通学路・歩道〈なるべく車道を歩かない〉・路側帯 等）
 - ◇横断をする場所、待機する場所の指導
 - ◇自転車に関わる交通ルールの指導（通行できる道路〈車道・自転車通行可の歩道〉等）
 - ◇交通法規等の指導（標識・表示・スクールゾーン・ゾーン 30 の意味 等）

2. 緊急対応のポイント

＜具体的事例＞

児童が下校途中に自動車と接触し、負傷していると市民から学校に連絡が入った。

校長の対応

- ・所属教職員（担任・養護教諭等）を事故現場に向かわせ、被害児童の安否状況等を確認させる。
 - ◇被害児童・相手側の双方の怪我の状況を確認
 - ◇加害事故か被害事故かを確認
 - ◇救急車の手配と搬送先病院の確認
 - ◇警察への通報を確認
 - ◇相手側〈車両等〉の特徴（車種・色・ナンバー等）の確認
- ・学校に残っている所属教職員に保護者に連絡をさせる。



教育委員会への連絡

- ・速やかに学校教育部に連絡する。

○留意点

- ・現場に向かった教職員は、保護者が来るまで被害児童に寄り添う。
 - ※保護者に連絡がつかない場合等は、救急車に同乗する。

3. 事後の対応のポイント

全校集会等で交通安全指導を実施し、注意喚起を行う。また、必要に応じて、通学路の見直しを行い、危険な場所については、登下校時に通らないように指導をする。